

JET からの手紙

小さな島から見渡した世界

沖縄県座間味村役場 国際交流員

Jaime Cerna (ジェイミー・セルナ)

世界が恋する海 座間味村

座間味村は沖縄県の県庁所在地の那覇市から高速船で約1時間西に向かったところに浮かぶ亜熱帯の島々、「慶良間諸島」にある離島の村です。有人島の座間味島・阿嘉島・慶留間島の人口を合わせても1,000人にも達しない小さな自治体です。とても小さな村ですが、ケラマブルーと称される美しい海に囲まれた大自然に恵まれています。国際的に有名なトラベルガイドブック「ミシュラン・グリーンガイド」の二つ星の評価を受けています。たくさんのカラフルなサンゴと熱帯魚が生息する古座間味ビーチ、アオウミガメの餌場でもあるエメラルドの色で光り輝く遠浅のアマビーチ、阿嘉島は豊かな自然に囲まれ、ケラマジカの生息地でもあります。



ケラマブルーグラデーションが広がる海の様子

座間味村は歴史深い場所でもあります。慶留間島にある19世紀に建築されたとされる船頭職住宅、「高良家」は国の重要文化財に指定されています。この島々は、か

つて沖縄本島から中国への唐船貿易の中継地でした。慶良間諸島は沖縄戦において米軍が最初に上陸した土地であり、多くの命が失われたという悲しい歴史は今でも座間味の村民により語り継がれています。

冬から春（1月から3月末）にかけて、ザトウクジラが繁殖活動のためにケラマの温暖な海に毎年帰って来ます。ザトウクジラの華麗な動きはクジラ類の中でも最もアクロバティックと言われ、この期間限定のホエールウォッチングを楽しみに世界中の方々が座間味村を訪れます。

気づけば、この村の国際交流員（CIR）としての活動も3年目を迎えました。私はペルーで生まれ、小学生時代まで日本で育ち、その後はフロリダ州で過ごしたアメリカ人です。さまざまな文化や多言語に触れてきた私は、幼いころから自分の知らない世界に大きな関心を持ち、将来は国際関係の職業に就き 座間味村観光協会の様子



たいと思っていました。大学卒業後、主にワシントンD.C.で働いていた私は、新たなチャレンジを求めJETプログラムを通して、CIRとして来日することを決意しました。日本全国のさまざまな地域で活躍するCIR。座間味村での生活はいまだに夢のように思います。

座間味村国際交流員の業務

豊かな自然は全国的に認められ、2014年3月5日

(サンゴの島)に座間味村を含む慶良間諸島は31番目の国立公園として指定されました。そのため、毎年およそ10万人の観光客が全国と世界中から座間味村へ訪れます。

CIRとしての主な業務は、島の玄関でもある港を訪れる多くの外国人観光客への対応です。村のルールを守ってもらいながら、楽しく安全にご提供いただくことを心掛けています。村全体の標識、案内資料の作成、そして村のインバウンド推進・商業の受入れ態勢など、内容も幅広くとても充実した業務に従事しています。



東京ツーリズム EXPO での座間味ブースの様子



パドルスポーツ業者向け英語講習の様子
そのため、海外からのお客様も益々増えると予想されているので、今まで以上に頑張っていきたいと思えます。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの聖火が座間味島を通過すると発表され、さらに世界中の注目を浴びることになります。

離島ならではのふれあい

私たち CIR はあらゆる地域で、地元の人々のために全力を尽くす存在です。私にとって座間味村はユニークで特別な場所だと思います。今まで過ごしてきた都会生活の中では、近所の人とまともに言葉を交わさないことが多かったですが、座間味村は大違いです。近所どころか、島の多くの人とは顔見知りです。小さなことから、大きな出来事まで、島における情報の流通スピードには



オフ島とハワイ島へ視察した際のハワイエコツーリズム協会会長とのヒアリングの様子

いつもびっくりします！座間味生活を通して、コミュニティの大切さや、多くの来客を受け入れる少人数の自治体の課題など、たくさんの教訓を学びました。



ハワイ州へエコツーリズムに関する視察を行った際の様子

今まで国際交流とは、国際機関などでしかできないものだと思っていました。ですが、この島で2年間、世界中の人々との出会い、一生忘れられない経験を積み

重ねてきました。小さなコミュニティの CIR として、国際交流は自分のコミュニティから人々を結び付け、その絆をどんどん広げていくものではないかと思い始めました。

小さな村ですが、自然の美しさと島人の温かさは世界のどこにも負けないと思います。皆さんも、座間味村へ めんそーち・くいみそーり！（いらっしゃってください）。



セーリングの日本代表とニュージーランド代表が合宿で座間味村を訪問した際の様子

プロフィール



Jaime Cerna

ペルーの首都、リマで生まれ、11歳まで日本で暮らした。その後アメリカのフロリダ州に移住し、アメリカ市民権を取得。大学では国際関係を専攻。卒業後、ワシントン D.C. でエクアドル大使館とメキシコ大使館の貿易課に所属。当時知り合った日本大使館のスタッフに JET プログラムを紹介されたのが CIR になったきっかけ。将来の夢は、日本とアメリカを行き来できる日米関係の仕事に就くこと。